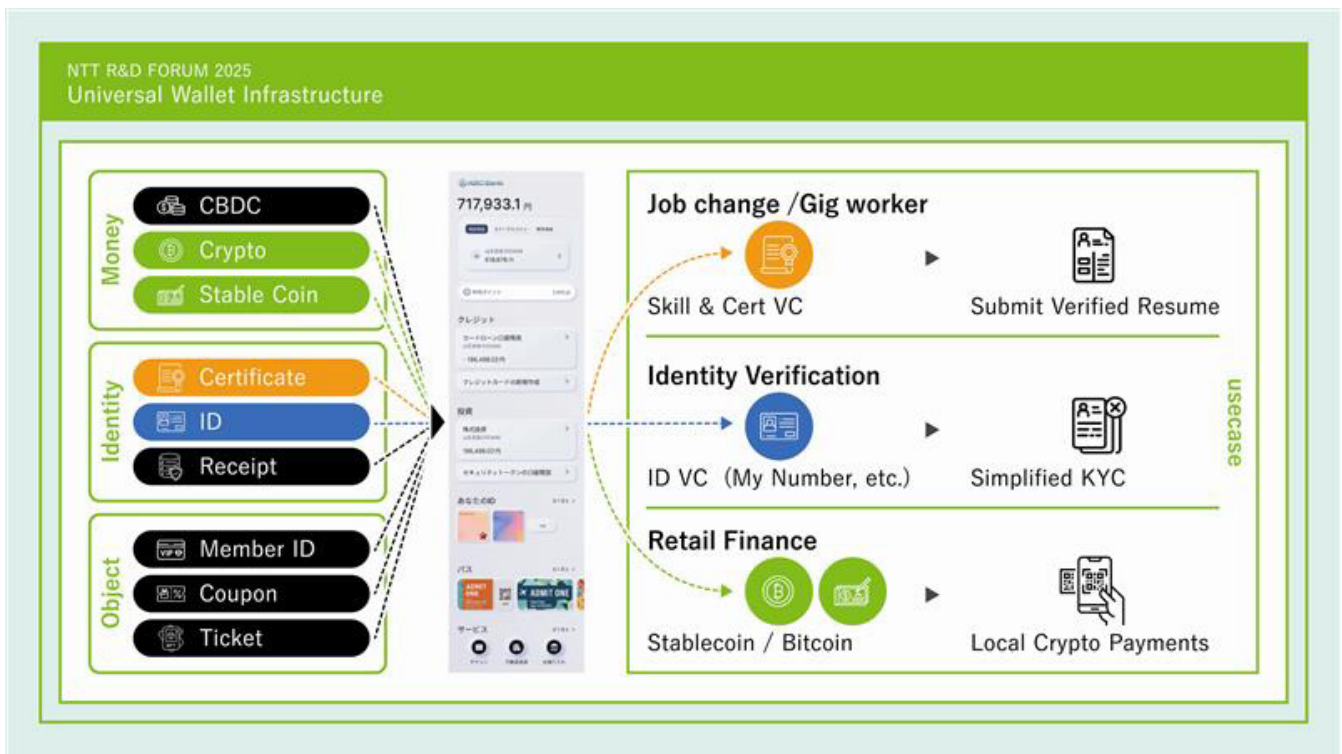


個人情報をデジタル証明書として発行・管理し、第三者に開示・提出が可能 Digital identity wallet global infra

背景 – 技術課題

欧州や国内大手企業の実証実験も多く実施されているものの、商用・民間の大規模な導入実績は少なく、社会インフラとなりうるシステム品質とのギャップが大きい。またDigital Identity Wallet分野は、暗号資産業界と比較し、暗号化技術導入が進んでおらず、セキュリティレベルの向上は不可欠です。



研究目標 – 成果

自己主権型デジタルID管理を基本とするEU法制の世界的拡大に対応し、個人が自分のデータを管理・制御できる技術インフラ提供をめざします。

技術ポイント

01 要素技術

- ・ 秘密分散鍵 (MPC)の導入
- ・ SSI (個人主権) を前提としたクラウド技術の導入
- ・ 複数事業者間での個人情報の流通の実現 (相互接続)

02 市中技術差異点

MPC対応デジタルIDウォレット実現例は少なく、NTTグループ内の暗号化技術を製品実装することで安心・安全・高信頼を実現。SI・クラウド融合したウォレットは実現すれば世界初

利用シーン 金融

R&Dフェーズ ビジネス展開

【出展企業】
株式会社 NTTDigital

【問い合わせ先】
株式会社 NTTDigital

【共同出展社/社外連携先】
NTT社会情報研究所、NTTネットワークサービス研究所

【関連Link】
<https://youtu.be/KsgZZaCSc8Y?si=dkmOeZRyBsAjatFF>